

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

「市場が思うより(米経済は)健康です！」

(P2)

りそな銀行 市場トレーディング室
カスタマーディーラー 伊藤 一輝

今週のドル円予想レンジ **109.50 ~ 111.35**

りそなWEEKLY COLUMN

読者への挑戦 X VI

～ 北へ南へ東へ西へ ～

(P3)

関西みらいフィナンシャルグループ
ストラテジスト 石田 武

- 読者への挑戦 X VI
- 関東の豚肉文化、関西の牛肉文化
- マーケットにおける地域性
- 解決編

2021/8/10

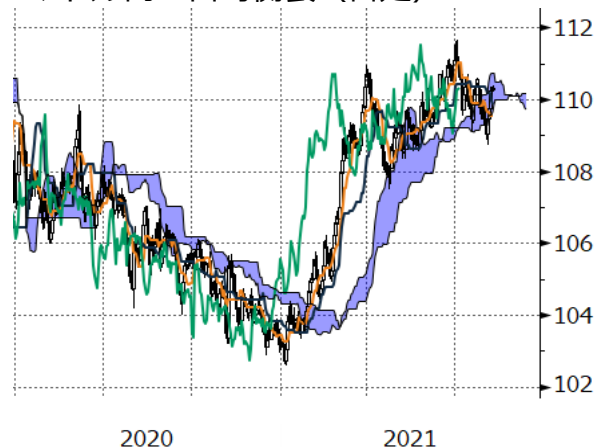
りそな外為レポート

「市場が思うより(米経済は)健康です！」

今週のドル円予想レンジ **109.50 ~ 111.35**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表 (日足)



◆為替相場のすすめ

先週のドル円は「往って来い」の展開となった。4日NY時間のADP雇用報告が期待外れだったことを受けて一時108円70銭台まで円高が進んだ。しかし、FRBクラリダ副議長から米経済を楽観視する発言が飛び出したことで米金利は上昇に転じ、ドル円は109円後半まで急伸した。市場で渦巻く先行き懸念が一蹴された格好だ。雇用統計は非農業部門雇用者数943千人、失業率5.4%と好調な結果で、労働市場は力強い回復を示唆している。

今週のドル円は底堅く推移すると見ている。雇用の改善により、テーパリング(量的緩和縮小)の導入に向けて一步前進した印象だ。米国全土での失業給付上乘せ打ち切りが9月上旬に迫る中、コロナ禍で失職した者の再就職が引き続き促されると考える。お盆シーズンは取引閑散となりがちだが、米消費者物価指数などの発表を控える。ドル高方向へ「ゴン攻め」する動きには警戒が必要だろう。

(カスタマーディーラー 伊藤 一輝)

◆ 今週の日程

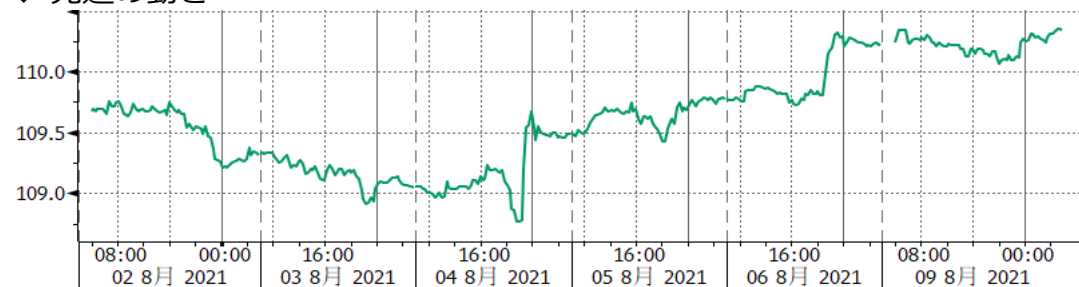
| | | | |
|----------|--------------|----------|-----------------|
| 10日(火) 日 | 7月景気ウォッチャー調査 | 12日(木) 日 | 7月企業物価指数 |
| 10日(火) 米 | 3年債入札 | 12日(木) 米 | 7月PPI |
| 11日(水) 日 | 30年債入札 | 12日(木) 米 | 30年債入札 |
| 11日(水) 米 | 7月CPI | 13日(金) 米 | 7月輸入物価指数 |
| 11日(水) 米 | 10年債入札 | 13日(金) 米 | 8月ミシガン大消費者信頼感指数 |

◆ 今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓)

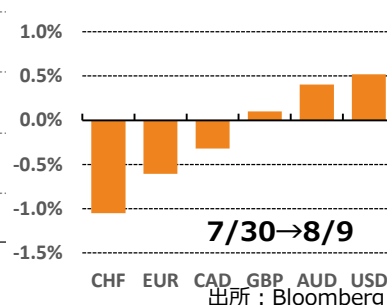
NY引け値 8月9日(月) 110.29円 VS 8月13日(金)

| 東京 | | | | | 大阪(りそな) | | | | | 埼玉 | | | | | 大阪(関西みらい) | | | | | 神戸 | | | | | | | | | | | |
|----|-----|----|----|----|---------|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|-----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 井口 | 小林伸 | 石川 | 田中 | 中里 | 范 | 伊藤 | 村永 | 岩田 | 小林翔 | 上野 | 曾根 | 鈴木 | 武富 | 湊真 | 中太 | 石井 | 中根 | 津田 | 佐藤 | 中山 | 内田 | 荻窪 | 藤森 | 三好 | 石田 | 尾股 | 中野 | 荻谷 | 辻村 | 山木 | 下川 |
| ↑ | ↑ | ↓ | ↓ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | 休 | ↑ | ↓ | 休 | ↑ | ↑ | ↓ | ↑ | 休 | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | 休 | ↓ | ↓ | ↑ | ↑ | ↑ | ↓ | ↑ |

◆ 先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2021/8/10

りそな WEEKLY COLUMN

読者への挑戦 XVI

～ 北へ南へ東へ西へ ～

- 読者への挑戦 XVI
- 関東の豚肉文化、関西の牛肉文化
- マーケットにおける地域性
- 解決編

関西みらいフィナンシャルグループ
ストラテジスト 石田 武

➤ 読者への挑戦 XVI

【読者への挑戦 XVI】

東日本と西日本を分ける境界線にはいろいろな考え方がありますが、次のうち、**気象庁が定義する「東日本」に含まれる県をすべて選んでください。**

新潟県 石川県 富山県 福井県 静岡県 岐阜県 愛知県 三重県

➤ 西日本か東日本か

東京や大阪でお暮らしの方にとっては、ご自身のお住いが東日本なのか、西日本なのかを意識する機会は滅多にないと思いますが、私のような愛知県周辺の出身者にとってはなかなかセンシティブな問題だったりします。中部地方、東海地方、中日本、(京都から見ての『東京』に対して) 中京、等、さまざまな括られ方はありますが、やはり西か東かで分けたときにどちらに属すべきなのかについては気になるところです。

西日本と東日本の境界については後程「解決編」にて詳しく記載いたしますが、現在のストラテジストとして仕事をする機会を得てからは、西日本と東日本の文化の違いを感じるが増えてきました。私が属する市場企画部情報戦略チームは東京、大阪、神戸にそれぞれ拠点があり、日頃からメンバー間で情報交換を密に行っているのですが、そのようなやり取りの中で、ふと「おや？」と思うことが時々あります。「うどん派か蕎麦派か？」問題(ちなみに私は「きしめん」派です)等に代表されるように、東西での食文化の違いは枚挙に暇はありませんが、今回はその中から「豚肉派か牛肉派か？」問題に着目してみたいと思います。

関東にずっとお住いの方は意外に思われるかもしれませんが、関西では日常の惣菜的な家庭料理にも牛肉をよく使います。私も時々、圧力鍋を使ってカレーライスや肉じゃがを作るのですが、それらに入れるのはやはり牛肉が多いです。豆腐や白菜と一緒に煮込んだ「すき煮」なんかも、簡単でおいしいのでよく作ります。

52政令市の牛肉・豚肉消費量ランキング

(りそなグループ4行の
本社所在地+名古屋市を抜粋)

| 政令市 | 牛肉 | 豚肉 |
|-------|-----|-----|
| 東京都区部 | 25位 | 20位 |
| さいたま市 | 38位 | 4位 |
| 大阪市 | 2位 | 43位 |
| 神戸市 | 18位 | 45位 |
| 名古屋市 | 36位 | 21位 |

出所：
総務省家計調査より筆者作成
(2018年-2020年の平均)

2021/8/10

りそな WEEKLY COLUMN

➤ 牛肉文化と豚肉文化

牛車に乗る句宮
『源氏物語絵巻』より



出所：Wikipedia

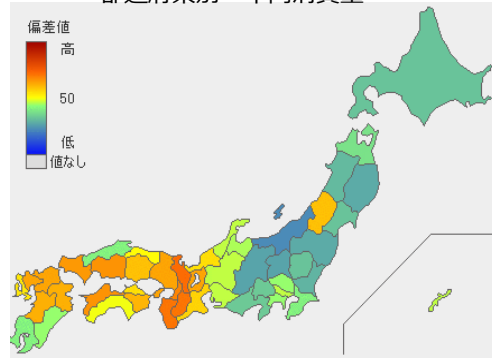
一方、関西ご在住の方にとっては、関東ではカレーライスや肉じゃがにも豚肉を入れると聞くと、驚かれるのではないのでしょうか。カレーライスはともかく、肉じゃがは牛肉か豚肉かで全く違う料理になるような気がいたします。どんな味になるのか、それはそれで興味の湧くところです。

このように、一概に「肉」と言っても、関東では豚肉を、関西では牛肉をイメージする方が多いようです。関西では肉まんのことを豚まんと呼ぶのも、肉＝牛肉を意識する関西文化のなかで、豚肉という特徴を表現するためとも言われております。では同じ日本料理の文化のなかで、なぜこのような違いが生まれたのでしょうか。

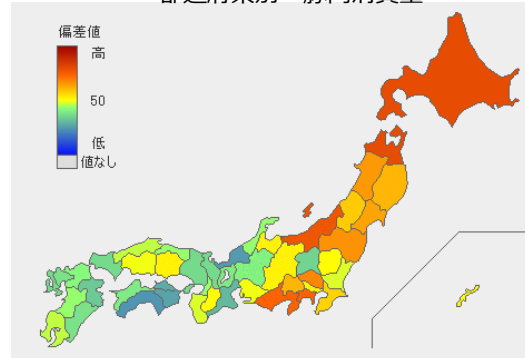
そもそも日本では古来から農耕や移動手段として、関西では牛が、関東では馬がよく使われる傾向にありました。これは関西では公家文化が、関東では武家文化が中心であったこととも関係あるのかもしれませんが、なんとなくですが、貴族は牛に曳かれた牛車（ぎっしゃ）に乗っているイメージです。明治時代になって肉食が解禁されると、この農耕用の家畜を食用に転用するようになるのですが、特に明治期に来日した外国人から高く評価されたのが、和牛の元祖とされる但馬牛でした。味もよく、繁殖力も強い但馬牛は、その後関西各地に伝わり、神戸牛、近江牛、松坂牛等の和牛ブランドが確立されていきました。

一方、大量消費に適さない馬を中心とした関東文化では、もともと牛肉の供給が乏しかったうえに、日清・日露戦争で大量の牛肉が缶詰とされて戦地に送られたことで、深刻な牛肉不足となりました。この危機を救ったのが、安価で繁殖力が強い豚肉でした。生まれてから出荷までの期間が約半年と、牛の1/5程度で食用に供することができる点も、重用された一因のようです。

都道府県別 牛肉消費量

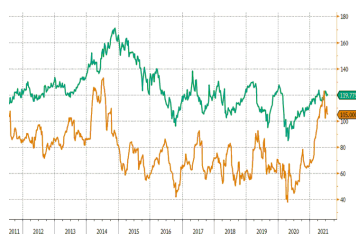


都道府県別 豚肉消費量



出所：WEBサイト「都道府県別統計とランキングで見る県民性」

生牛先物と豚赤身肉先物



出所：Bloombergより筆者作成

このように産地や文化の違いにより、関東では豚肉文化が、関西では牛肉文化が花開いていきました。ちなみにシカゴ・マーカントイル取引所では牛肉と豚肉の先物がそれぞれ上場しています。コロナ禍において両者の価格は対象的な動きをしておりますので、産地や消費地の違いから値動きを追ってみても面白いかもしれません。

◎注意事項

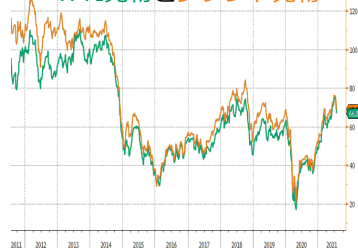
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていないととにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2021/8/10

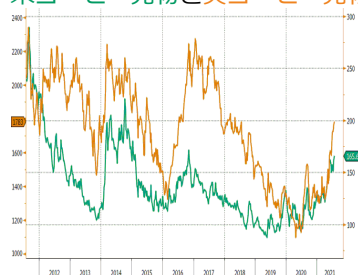
りそな WEEKLY COLUMN

▶ コモディティ市場の地域性

WTI先物とブレント先物



米コーヒー先物と英コーヒー先物



出所：Bloombergより筆者作成

▶ 解決編

さて、マーケットの世界ではこの他の市場でも、産地の違いが重要な意味を持つことがよくあります。代表的なものはやはり原油でしょうか。ニューヨーク・マーカンタイル取引所に上場するWTI（West Texas Intermediate）とロンドンのインターコンチネンタル取引所の北海ブレントはどちらも原油であることは同じですが、米国テキサス州で採掘されたWTIは、英領北海で採掘されたブレント原油と比べて、より軽質であり、ガソリン等石油製品の精製効率が高いため、理論上はWTIの方が価格が高くなるのが本来の姿ようです。近年この価格差が逆転する傾向にあるのは、ブレント原油の生産量の減少や、地政学リスクの影響を受けやすいこと等が背景にあるようです。

他にもコーヒー先物も米国、ロンドンそれぞれで上場しておりますが、米国で上場しているのは、主に南米で生産されたアラビカ種と呼ばれる上級品種で、主に喫茶店等のレギュラーコーヒーに使用される一方、ロンドンで上場するのは東南アジアやアフリカで生産されるロブスタ種と呼ばれる苦みの強い品種であり、主にインスタントコーヒーや缶コーヒー等に使用されます。こちらもコロナ禍において大きな値動きが発生しておりますし、前回の私のコラムでご紹介させていただいた「単位の違い」も堪能することができます（アラビカ種はポンド単位、ロブスタ種はトン単位）。マーケットを見る際はこのような点にも注目されてみると面白いかもしれませんね。

【解決編】

日本列島の地質的な境界線は糸魚川静岡構造線（ISTL）という大断層線で、新潟県糸魚川市から諏訪湖を通過して静岡県駿河市の安倍川付近に至る、通称：糸静線と呼ばれる線です。一般的にはこの線が東日本と西日本を分ける線とされていますが、他にもNTT東日本/西日本の管轄による区分や、電気の周波数による区分（東日本は50Hz、西日本は60Hz）、そして気象庁による区分等が分け方として挙げられます。NTTや周波数は概ね糸静線に近い境界線となっているのですが、気象庁による区分は「東海地方」が丸々東日本に含まれるような分け方となっているので、選択肢に挙げた県はすべて東日本、が正解となります。関西圏にお住まいの方は「三重県はこっち側ちゃうんか」という印象を持つ方が多いのではないのでしょうか。ちなみに「関西」という言葉は「逢坂の関より西」を意味しており、一般的には京都、大阪、奈良、滋賀、和歌山、兵庫の2府4県を指しますが、「近畿」と言ったときは「畿内（山城、大和、河内、摂津、和泉）の近隣」を意味しており、この場合は大和（概ね奈良県全域）に接している三重県を含む、2府5県を指すようです。私の隣の席の同僚（大阪府岸和田市出身）も「三重は近畿やから西日本やろ」と言っておりますので、やはり関西では一般的な認識なのだろうと思います。愛知県民も、尾張と三河の区分にはこだわりがありますしね。

以上

参考文献：
NIKKEI STYLE 2017/2/11記事
コモディティハンドブック石油・ゴム編/日本商品先物取引協会
コモディティハンドブック農産物編/日本商品先物取引協会

今回ご紹介したそれぞれの項目については、執筆時点のWikipediaの記事を参考しております。

◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。